

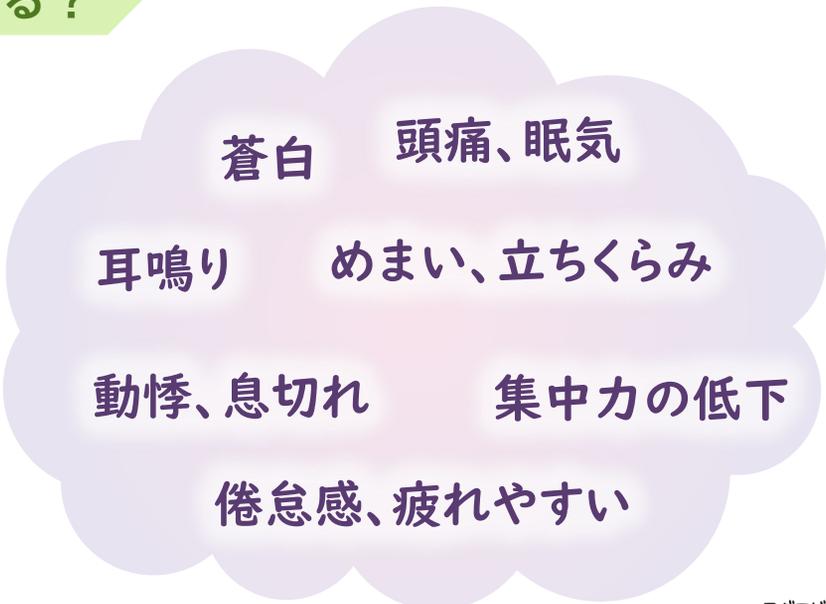
貧血ってなに？

血液はカラダの中を巡る重要な体液で、骨髄でつくられます。全身に酸素や栄養分、ホルモンなどを届ける役割があります。

「貧血」とは、血液中の赤血球に含まれるヘモグロビンという物質が少なくなった状態です。ヘモグロビンは血流に乗って酸素をカラダのすみずみまで運ぶ働きをしています。そのため、ヘモグロビンの量が低下するとカラダの組織に十分な酸素が行き渡らず、さまざまな不調があらわれるようになります。

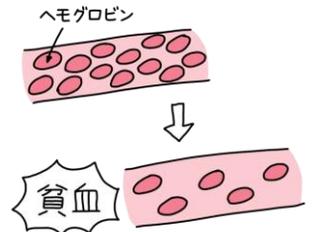
貧血 とは？

貧血になるとどうなる？



貧血の原因はひとつじゃない！

貧血は、赤血球のもとである「鉄分」の不足によるものというイメージが強いかもしれませんが、実はさまざまな原因があります。



赤血球・ヘモグロビンを作れない	赤血球・ヘモグロビンがなくなってしまう
<p>栄養素の不足 赤血球・ヘモグロビンを作るのに必要な栄養素（鉄、亜鉛、葉酸、ビタミンB₁₂）が不足する。</p> <p>骨髄の病気 骨髄で赤血球が正常に作られなくなる。</p> <p>腎臓の病気 骨髄に血液を作らせるサインである「造血ホルモン」が腎臓で正常に作られなくなる。</p>	<p>大量の出血、出血の持続 頻発月経、過多月経などの月経異常や、胃・十二指腸潰瘍やがんなどによる出血により、赤血球・ヘモグロビンが不足する</p> <p>赤血球の破壊（溶血性貧血） 細菌感染、免疫の異常、激しい運動などで赤血球が破壊される。</p>

